

会報

2008
No. 12

INDEX

- 平成 19 年度
歴史のみえるまちづくり事業 —— 2~3
- <特集>浜町界隈の歴史と今 —— 4~5
- 子ども歴史クラブ —— 6
- 歴史講座 —— 7
- ふくいの歴史紹介 —— 7
- 協会からのお知らせ —— 8

■編集・発行

(財)歴史のみえるまちづくり協会事務局
〒910-8511 福井市大手3丁目10番1号
福井市歴史のみち整備推進課内
電話0776-20-5106
<http://www.fukui-rekimachi.jp/>

平成20年5月



福井市立郷土歴史博物館蔵

松平春嶽生誕180年

第16代福井藩主、松平春嶽。春嶽は、激動の時代であった幕末にあって、四賢公に数えられる人物です。

中根雪江、鈴木主税、橋本左内といった優秀な人材を門閥に関係なく取り入れ、藩政改革に取り組み成果を挙げました。文久2年(1862)には第14代将軍徳川家茂の下、政事総裁職に就任し国政の中心を担い、明治政府でも多くの要職を歴任しました。公職を辞してからは文筆生活を送り、芸術面でも非凡な才能を発揮しています。

平成20年は春嶽の生誕180年にあたり、これを記念して、財団法人歴史のみえるまちづくり協会では、春嶽に関する歴史講座を2回開催する予定です。幕末の福井藩を指導した名君、春嶽の業績や人物像を広く紹介し、郷土の偉人に誇りを持てるまちづくりを推進していきます。

繊維王国の奥座敷

浜町には明治22年には市役所が設置され、昭和10年に現在地に移転するまで、この地区は福井の行政の中心でもあったのです。

近代は、産業構造、流通構造が劇的に変化した時期です。いち早く欧米の最新織機を導入した福井は「繊維王国」の地位を築いていきました。

本町通り、大名町通りの一帯は、繊維問屋、商社、金融が集中するビジネス街になりました。官庁街の形成、繊維産業・金融業等の発展に伴い、浜町は市随一の高級料亭街に発展します。

繊維産業は、戦時中の停滞、戦災・震災の打撃はあったものの、いち早く「繊維王国」の地位を復興しました。浜町の料亭も立て直り、昭和20年代には、戦前の様式を残した料亭や、著名建築家による料亭が建築されました。当協会では、これらの建築を後世に残すため、国の登録文化財への申請を支援してきました。この内、開花亭本館が昨年、登録有形文化財と認められ、料亭やま田は現在、審査中です。

開花亭

戦前の料亭の様式を残し、内部意匠が優れていることから、国の登録文化財に認められました。



料亭やま田

設計者吉田宏彦は、福井大学の教授を長年務め、福井の建築文化をリードした建築家です。やま田は、彼の業績を伝える数少ない建築です。

江戸時代の「浜町」は、現在の中央3丁目のほぼ西半分にあたります。城下町の入口であった九十九橋の北詰に当たる交通の要衝でした。

この東側は外堀で隔てられた福井城内でした。幕末には幸橋が架けられ、廃藩置県後に外堀が埋め立てられると、九十九橋、幸橋に挟まれたこの地区は、福井市の玄関として発展しました。



福井城下眺望図(部分) 江戸後期

図の下半分に足羽川が描かれ、川に架かる橋が九十九橋。浜町は、九十九橋の右側、川沿いの町です。



浜町界隈の歴史と今

浜町は、足羽川に面し足羽山を望む景観の地です。左の図は、江戸時代の様子が描かれ、足羽河原に芝居小屋が建てられているなど、賑わいが窺われます。今、浜町の景観・歴史が見直されて、新しいまちづくりが進められています。今回は浜町界隈の歴史を特集し、その特色をご紹介します。

ゆかりの人々

笠原白翁 (1809~1880)

天然痘予防に一生を捧げた笠原白翁は、嘉永2年(1849)、浜町の自宅で種痘を開始しました。この種痘所は、嘉永4年(1851)現在の春山1丁目に公的な種痘所である「除痘館」が設置されるまで続けられました。当時、種痘に対する理解は低く、浜町時代は、白翁の一生の中で、最も苦難の時代だったといえるでしょう。



(福井市立郷土歴史博物館蔵)

横井小楠 (1809~1869)

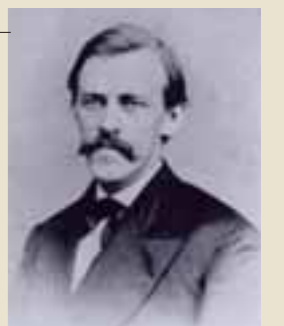
幕末の熊本藩士。その卓越した見識により、松平春嶽から政治顧問として招かれ、安政5年(1858)から文久3年(1863)の5年間、福井藩の藩政改革を指導しました。小楠の福井での居留宅は、地区の東側にあり、現在は石碑が設置されています。坂本龍馬は、福井来訪の折、小楠を訪ね、足羽川に浮かぶ舟上で会談したと伝えられます。



(福井市立郷土歴史博物館蔵)

ウィリアム・E・グリフィス (1842~1928)

明治初頭、福井藩は洋学教育に力を入れ、外国人教師を招聘しました。グリフィスは、米国のラトガース大学で、福井藩士日下部太郎と同窓だった縁で募集に応じ、明治4年から5年、福井藩で物理・化学等を教えました。この時、グリフィスが居住したのが、「異人館」です。



(福井市立郷土歴史博物館蔵)

異人館



(福井市立郷土歴史博物館蔵)

明治初期、福井藩が洋学教育のため招聘した外国人教師のための住居です。写真左のグリフィス居館は明治6年焼失。右のルーシー居館は昭和11年に焼失しました。

時鐘楼



(福井市立郷土歴史博物館蔵)

明治初期の古写真が郷土歴史博物館に残っています。4層の建物であり、周辺の民家と比べると際立った高さでした。

佐佳枝廻社



(「福井県下商工便覧」明治20年より)

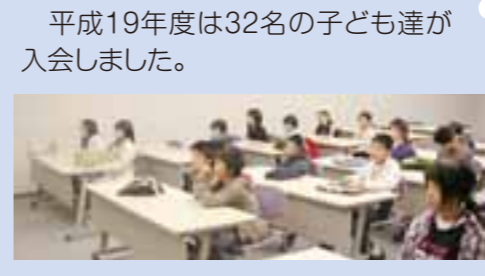
徳川家康を祀る「東照宮」を前身としますが、明治6年に結城秀康を祭神として創建されました。これは、戊辰戦争で賊軍とされた徳川家からの決別を示すとも考えられ、新しい時代に向かう福井のシンボルともいえます。明治29年に現在の大手3丁目に移転しました。図の左端には「異人館」も描かれ、図右側には「幸橋」が描かれています。

鉄道開通以前、浜町は福井の玄関口でした。そのためか、重要な建物や、珍しい建物が多く造られました。現在は失われてしまった、これらの建物を紹介します。

子ども歴史クラブ

～ふるさとの歴史を未来に～

子ども歴史クラブは、ふるさとの歴史を学び親しんでもらうため、また、歴史を学ぶ楽しさを知ってもらうために、市内の小学6年生から募集し活動しています。歴史が大好きな子ども達や、歴史はよくわからないけれど発掘調査や昔の遊びが楽しそうといった子ども達が集まって1年間さまざまな活動をしています。



平成19年度は32名の子ども達が入会しました。

昔遊びをして、昔の子はこんな遊びをしていたのかと思うものがあってびっくりしました。でも、とてもおもしろかったです。



おさごえ民家園で昔の暮らしを学びました。

今日行ったところは、写真や絵で見たことはあったけど、本物を見るのは初めてでした。特に古墳は印象に残りました。

大安禅寺、水切古墳群、免鳥古墳群などの史跡を見学しました。



郷土歴史博物館で滑石を削って勾玉を作りました。



砥石ややすりで削る根気の要る作業だったので腕が疲れました。仕上がったときはとてもうれしかったです。

福井城跡の発掘調査を体験しました。



子どもたちに修了記念品を授与し1年間の活動が終了しました。



クイズを解きながら福井の偉人について調べて、初めて知ったことがとてもたくさんありました。



福井の偉人についてパソコンを使って学びました。

A history lecture

平成19年度歴史講座 福井城—68万石の威容—

第1回講座
簀え立つ巨大建築

平成19年10月14日(日)

講師 福井工業大学 教授

吉田 純一氏

建築史の、立場から、福井城の天守、御殿等について、最新の知見を紹介いただきました。東照宮のものと考えられる部材の発見等の珍しい事例も紹介され、城郭を活かしたまちづくりも提唱されました。



第2回講座
地中から現われた巨城

平成19年10月20日(土)

講師 福井市中心市街地振興課 副主幹

坂 靖志氏

豊富な発掘調査経験に基づき、福井城の立地、歴史について紹介いただきました。石垣石材の刻印についての考察等、発掘によって得られた特色等を述べられ、遺跡保存の重要性を訴えられました。



講演録をご希望の方には協会事務局で配布しています。数に限りがありますので、お早めに。

ふくいの歴史紹介

福井市歴史人物こぼれ話(7)

あさくらのまひかけ
朝倉義景

天文2年(1533)～天正元年(1573)

「福井市歴史人物ガイドブック」で取り上げている人物に関するエピソードなどについて紹介します。平成18年、橘曙覧記念文学館では秋季特別展「描かれた越前ゆかりの人々」が開催されました。

この特別展は、司馬遼太郎、吉川英治等の日本を代表する歴史小説家が、越前を舞台に活躍した歴史上の人物を、どの様に描いているかを紹介する企画でした。幸にもご好評をいただき、多くのご来館をいただきましたが、企画段階で頭を悩ませたことは、どの作家が描く朝倉義景を紹介しようかということでした。

一乗谷朝倉氏の最後の当主である朝倉義景は、織田信長と同時代人であることから、頻繁に小説等に取り上げられています。しかし、司馬遼太郎を始め、多くの小説では「愚将」「愚物」として扱われており、この扱いがステレオタイプとなっている感があります。

熟慮の結果、特別展では水上勉の「越前記」に描かれた義景を取り上げることとしました。この小説の義景像が、最も実像に近いように思われたからです。

義景は、一乗谷第4代の孝景(宗淳)の唯一の男子として天文2年(1533)に生まれたとされますので、宿敵である織田信長より1歳年上になります。義景

への評価の多くは、信長との対比から生じていることは考慮されるべきでしょう。義景の評価が低い理由としては、足利義昭が義景を頼って来た時、上洛を断ったため、信長に先んずる機会を失ったということがあります。しかし、当時の朝倉氏は、北に加賀二向一揆という強敵が在り、上洛は非常に困難な状況でした。

また、姉川の戦いの惨敗や、末期には家臣の裏切りが続出したことから、軍団の統率力を問われることもあり。しかし、姉川の戦いは、近年の研究では、接戦・引き分けと考える見解が有力になってきています。また、旗色が悪くなると、家臣の寝返りが続出するのは、武田勝頼の例を挙げるまでもなく戦国時代の通例です。

水上勉は、淡々とした筆致で、文を好み平和を愛する義景像を描き出しています。

義景の悲劇は、平均的な為政者・武将でありながら、信長に象徴される元龜・天正という日本史上最も過酷な時代に立ち向かわなければならなかったことに尽きるといえます。

今回は「柴田勝家」の予定です。

協会からのお知らせ

橘曙覧記念文学館

幕末の歌人、国学者であった橘曙覧を顕彰し、市民の文学活動の拠点とするため、曙覧がかつて住んでいた黄金舎（こがねのや）跡に建てられ、平成12年に開館しました。

曙覧の歌や生涯について、わかりやすく展示しています。企画展や公開講座なども開催しておりますので、ぜひ一度足をお運びください。



開館時間：9時～17時15分
（入館16時45分まで）
休館日：年末年始

観覧料：100円

住所：足羽1-6-34

TEL(0776)35-1110

テーマ展

「曙覧を知ろう」

開催中～9月下旬

特別展

「仮」『雪の花』～笠原白翁と種痘」
10月上旬～11月9日

愛宕坂茶道美術館

茶道の概要、福井市の茶道の歴史をわかりやすく紹介しています。皆様に茶道文化に親しんでいただくことと企画展を開催しています。茶室、展示室（会議室）も貸しておりますのでぜひご利用ください（有料）。



開館時間：9時～17時15分
（入館16時45分まで）
休館日：年末年始

観覧料：100円

住所：足羽1-8-5

TEL(0776)33-3933

企画展

「恋する源氏物語」

開催中～6月25日

「仮」夏の茶 涼の空間」

6月28日～9月3日

「仮」狩野派―その美と匠―

9月6日～11月20日

ガイドブック販売しています



福井市歴史ガイドブック（4種）を1冊200円で販売しています。

また、「全訳註 独楽吟 橘曙覧 ひとりたのしめるうた」（400円）「橘曙覧入門」（500円）も販売しています。お求めは、福井市歴史のみち整備推進課・橘曙覧記念文学館・福井市立郷土歴史博物館にて。

歴史ボランティアグループ「語り部」からのお知らせ

ガイド申込み要予約

市外からの来訪者や市民の方に、福井市の史跡・名勝等をご案内します。

申込期限

原則としてガイド希望日の1週間前までにお申込みください。

ガイド時間

9時から17時まで。

ガイド料金

無料。ただし、交通費として、1000円申し受けます。

会員募集

対象

市内に在住、勤務、在学する人で、来訪者の案内や福井市の歴史に関する催し物にボランティアとして参加する意欲のある人

活動内容

年数回の研修会に参加したり、「語り部」としてボランティア活動に参加していただきます。

★申込み・問合せ

（財）歴史のみえるまちづくり協会内「語り部」事務局まで
TEL(0776)20-5106

歴史のみえるまちづくり事業に対するご支援・ご協力をお願いします

協会では、市民の皆様が身近に歴史に触れることができるよう、歴史人物彫像や城下町の風情をかもした旧町名等の石碑の設置などの整備を進めています。

また、伝統行事実施団体や地域づくり歴史ボランティアグループへの支援とともに、子ども歴史クラブ、歴史ボランティアグループ「語り部」の育成、歴史講座・シンポジウムの開催など、歴史について理解を深めるための事業を推進しています。

今後とも歴史のみえるまちづくりに向け、積極的な事業展開を図って参りますので、市民の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

あしがき

平成20年は、福井藩16代藩主松平春嶽が生誕180年、幕末の歌人橘曙覧が没後140年を迎えます。

色々な関連企画を通して、福井の歴史をもっと身近に感じてもらえる様、皆様にお伝えしていきたいと思っておりますので、当協会の事業に、今年も関心をお寄せ下さい。